

ひがなばな 彼岸花から銀杏へ

「暑いね」のご挨拶から「寒くなりましたね」と季節の移り変わりの早さに驚き、服装に悩み、体調を整え、周りを見ると街の風景は秋へと変わってきました。本格的な冬を迎える前の一時を楽しみたいものです。

コロナの対策もしつつ、日々動いていますので、皆様にお伝えしていきます。

長年、さくらホームとして暮らしてきた「ひめゆり荘」が取り壊しになるので、引っ越しをしました。二ヶ領用水沿いの、さくらや銀杏に囲まれた自然豊かな場所は仲間たちもお気に入りです。ホームの名称も毎年見事な桜が咲く並木にちなんで、「さくらホーム」と仲間が名付けました。引っ越し先も幸い近隣ですので、引き続きなじみ深い地域で暮らせます。

共有スペースは2階なので、4階が住まいの仲間たちも食事は2階で取ります。そのような生活の変化にも「自室のカーテンをかわいのに変えたい」「布団や洗濯ものがたくさん干せる」と早く新しい生活に慣れたいと思う様子も見受けられ、たくましさを感じます。これから仲間と快適に過ごせるよう考え、整えていきます。

引っ越しをしました

さくらホーム

はぐるま

No.111

2020年11月6日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会

川崎市多摩区
菅馬場 1-18-17
TEL 044-946-1308



トマトソースめし

あがれ



はぐるま工房の食堂から、オリーブオイルで炒めたニンニクのいい香りがしてきました。外からは炭で鶏肉を焼いた匂いが漂ってきます。はぐるま工房で栽培したシシリアンルージュというミニトマトを100%使用したトマトソースが完成したので試食の品を仲間たちで作り、トマトソースの味を楽しんでいたのです。

はぐるま工房でシシリアンルージュという名のミニトマトを育てて5年ほどが経ちます。仲間たちが毎日取り組める仕事として、たくさん採れて、長く収穫できる野菜として、栽培を続けています。

シシリアンルージュはサラダ等でもおいしく食べられますが、加熱することで一段と旨味が増します。地元の名産品を使った多摩川梨のジャムを生産している福祉事業所「はっぴわーく」さんが、昨年から試作を重ね、はぐるまのトマトを使ったトマトソースを開発・製造してくれました。

野菜を通して、生産者・製造者が福祉の共

はぐかふえて

憩いのひと時を



通項でつながり、その製品がこれから地域の中で多くの方々の生活を彩っていきけるよう来年以降も精一杯、栽培・収穫を続けていきたいと思っています

「ふれっしゅあーむ・はぐかふえ」

オープンしました!!

長らくお待たせしていた第2作業所の新店舗がいよいよ11月より本格オープンしました。直前のプレオープン時に仲間たちへお祝いのお言葉をかけてくださった、物件オーナーや西生田商店街をはじめとする地域の皆様、そしてオープン日にご来店いただきました皆様、誠にありがとうございました。

今回、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、仲間たちの活動に最も影響を受けたのは第2はぐるま共同作業所でした。

政府の緊急事態宣言の発令を受け、4月8日からの作業所の閉所により、ホームごとの活動が余儀なくされました。第2作業所の日常活動が再開に至ったのは6月初めです。

しかし、日中活動の場である喫茶室に関しては、よみうりランド花ハウス様が高齢者施設であること、仲間たちが主体的に働く場であったことを鑑み、営業再開の見通しが全く立たない状況にありました。

作業所やホームでの限定的な活動再開に仲間たちとスタッフは戸惑いながらも、その状況を受け入れざるを得ませんでした。

活動がなくなり、やることが無く、活動場所もコロナ対応で分散せねばならない状況に、仲間たちもスタッフもモチベーションは下がるばかりの日々でした。そんな時に「今の作業所を改装してお店にしてはどうか？」と、きっかけを与えてくれたのが、「料理サロン」で日頃から仲間たちへの技術指導に尽力してくれていた菊池シェフの存在と、前責任者であった故蛭海職員が残してくれた「第2作業所の飲食営業許可書」でした。

この提案と様々なアイデアを盛り込み、仲間たちと作業所スタッフの手による「はじめの自分たちのお店作り」がスタートします。「とことん、仲間たちが主人公のお店」をコンセプトとしてこだわり、内装の壁塗りから、天井板の加工、床はがしまで、「お店作りで何に苦労した？」と聞かれれば仲間たちみんなが答えられるほどに、一から手作りで仕上げたお店の中。そして、菊池シェフの協力のもとで実現をした、仲間たちが参加可能で商店街の名物商品を資源として使ったメニューの開発。第2作業所だけのお店とならないように第1作業所のお菓子や工房農園産の野菜、そしてハーブの苗やその加工品の販売コーナーなど、仲間たちが「お客さんに知ってほしい！来てくれたお客さんをおも

てなしたい！」と願った全てを盛り込んだ欲張りなお店として、オープン間もないですが、たくさんさんの課題とぶつかりながらも、これから「当たり前前であることを当たり前と思わず感謝すること」をコロナから教訓として一緒に学ばせてもらった、最高の仲間たちとスタッフとで力を合わせ、前向きに乗り越えていこうと思います！

津久井やまゆり園の生活で当事者が失ったもの

10月15日、きょうされん主催の研修に職員32名が参加しました。（常勤・非常勤による二カ所でのオンライン研修を実施）

内容は、事件の経過概要が前半、後半は地域移行した利用者の例を通して支援のあり方を考える講演でした。

前半・経過概要に關してのまとめ

・・・事件後から、生き残った津久井やまゆり園の利用者の尊厳や意思決定を守るため、どんな暮らしを望むかを支援チーム中心に聞き取りを行っていた。その過程で、どうも施設の中で虐待と思われる支援が常態化しているのではないか、という疑惑が生まれ



そこで2020年1月、検証委員会が立ち上がり、津久井やまゆり園の支援についての検証を行った。しかし、そのさなかに新型コロナウイルスの波が押し寄せ、結局、施設の資料から支援の実態を読み取るにとどまり、利用者や支援者実際にヒアリングができないまま2020年5月に「中間報告」が出された。

そこには「見守りが困難」だからという理由で身体拘束や居室施錠が長期間行われていたことが明らかになった。ところがこの中間報告をもって、検証委員会は打ち切りにするという。

その理由は、津久井やまゆり園だけではなく、県立の六施設を対象に検証する新たな「利用者目線の支援推進検討部会」に移行するから

というもの。まず、事件の当該施設の背景を明らかにしないと焦点がぼやけてしまうと、障害団体や当事者団体は要望を繰り返している・・・（以上この事件の経過報告）

2020年3月31日、植松被告（当時）に死刑が確定しました。判決文の中に「犯行動機の中核である被告人の重度障害者に関する考えは、被告人自身の本件施設での勤務経験を基礎としている」と明確に述べられています。つまり、施設の風土や職員都合の支援によつては、同じような事件を生み出してしまう恐れがあるということです。

だからこそ植松死刑囚個人の価値観・その他の因子だけではない事件の背景をもっと掘り下げ、事実を明らかにしないことには本当の教訓は得られないのです。

神奈川県厚生常任委員会での件については扱われるのですが、自派と対立する検討メンバーを外したいとか、内容は公表すべきでないとか、かながわ共同会（津久井やまゆり園などを運営する法人）から非難をそらしたいとか、そのような事情による思惑があるように感じます。事件の本質が政争の具にされることだけは避けたいものです。

後半・・・やまゆり園の地域生活を望む利用者3名を受け入れた「てらん広場」の施設長、大川氏による講演では、映像中心に経報告がされました。

下肢に障害ある方の一例では、現在は地域の回収作業に自分の足で参加しています。この方はやまゆり園で十数年間もの間、車いすにひもで結び付けられて過ごしていたそうです。てらん広場に来た直後のようすと現在のようすを比べると、歩き方がはつきりわかるほどスムーズになっています。

今では当たり前に自分の足で生活しています。危ないから、手が足りないから、という理由でその人自身の力を抑制し、できることをできなくさせるのは人間としての尊厳を軽視していることに他なりません。

大川氏は、支援者は利用者に対し「支援の仕方は仮説を立てて書き換えていく」ことの繰り返しだと言います。確かに、我々の仲間に対する見立てが必ずしも正しいとは限りません。だから仲間には迷惑をかけながら支援者として育ててもらっているともいえます。それに報いるためにも、仲間のことを知り、広く他の実践にも学び、チャレンジしていくことが大切なのだとあらためて感じま

す。津久井やまゆり事件の本質は、障害のある仲間への誠実な「門構え」を支援者が持っているか、そこにつながっていると私は思います。

（報告者・サービス管理責任者 金田）

研修後のアンケートより（2名抜粋）

- ① 印象に残ったことは、てらん広場の方
お話の利用者に対しての見方でした
- ・ 日常の動きを観察し本人の発達の度合いを見る
 - ・ 施設を利用する目的を本人と確認しあう
 - ・ ただ寄り添うだけでなく本人の状態から、困っていることは何か、どうしたらそれを減らしていくかを一緒に考えていく
 - ・ 問題を起こす人↓意思のある人
困らせる人↓困っている人

今回の研修で、寄り添うだけでは職員として不十分である事を再認識しました。

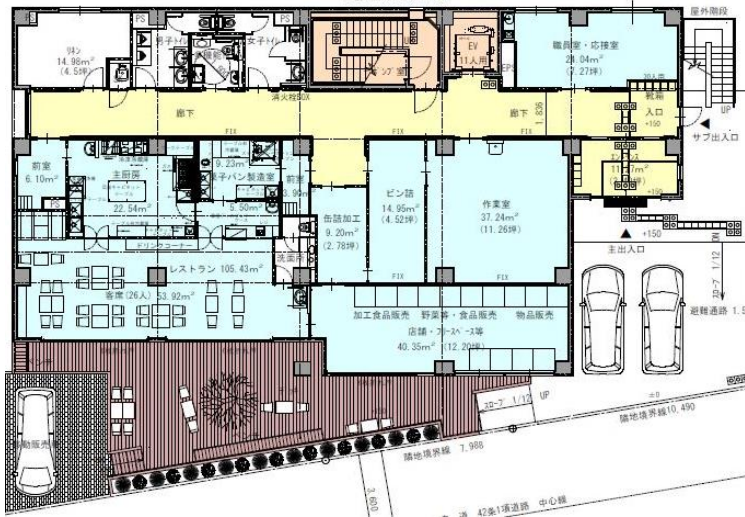
② 被告の「障害者は必要のない人たち」を最後まで変えなかった背景に、施設の取り組みにも原因にあったとのことですが、今後の調査の結果を注視していきたいと思います。
※仲間とう向き合うか職員一人一人が考えた時間であり、「これから」につなげなくてはならない問いかけが沢山ありました。

多摩地区 拠点施設 建設計画

の報告をいたします。

大きな一歩を踏み出しました！

『ご協力をいただいた この売上金は、仲間
の家を建設するために大切にに使わせていた
だきます！』という説明を何千人いや…大げ
さではなく、何十年も続けて来た資金集めの
活動ですので、延べ何万人という方々に仲間
たちやご家族と一緒に続けてきた成果が
ようやく実現する時がきました。



1階 カフェ＆レストラン

1階

食文化へのチャレンジをテーマとし



1階 カフェ＆レストラン・食品加工室・直売所・ギャラリー

施設建設のためのワークショップを開催し、
仲間たちとご家族の要望をお預かりいたし
ました。頂戴をいたしましたご意見やご指摘
内容に関しましては、まだ大部分をこれから
計画に盛り込んでいく段階となるのですが、
新拠点施設の基本コンセプト（概要）と仲間
たちの働きと暮らし方が設定をされてきま
したので、ご報告いたします。

た、【仮称】はぐるまフードパークの開設

2階

はぐるま自慢のモノづくり工房と

【仮称】仲間食堂（仲間自身も働く給食室）

3階

念願のリラックスマールーム（個別支援対

応室）と少人数作業室、そして仲間自治会

熱望の大ホールといつでも仲間同士で相談

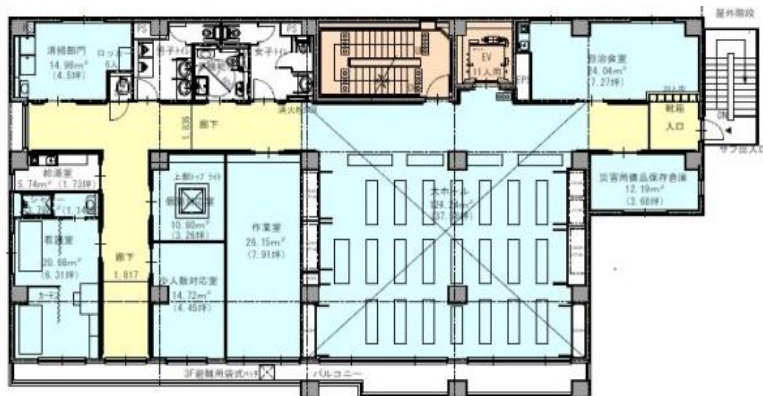
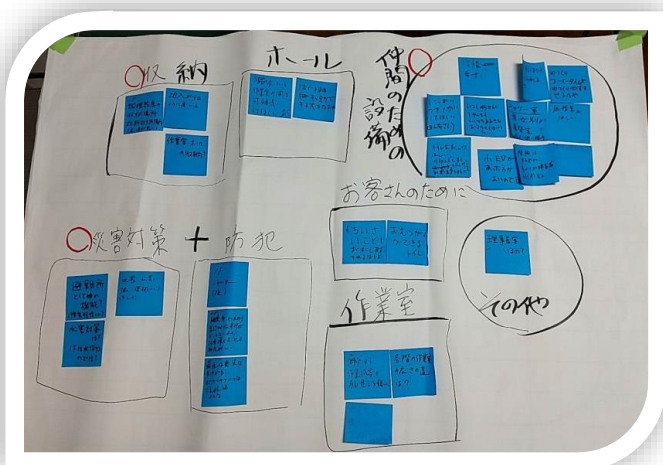
や会議ができる仲間自治会室



2階 仲間食堂と仲間のものづくり工房

コロナ渦の中でしたが、8月と10月に拠点

【仮称】仲間の家建設計画では、以下の仲間とご家族のねがいを実現します！



3階 個別・少人数対応作業室、大ホール&仲間自治会



仲間自治会からの要望（全作業所仲間より集約）

- ☐ 関係者全員が集まれる大ホール
- ☐ いつでも使える会議室
- ☐ 大きな音や声が苦手な仲間たちがゆっくりと休めるリラックスルーム
- ☐ ずっと続けてきた、はぐるま自慢のミシンができる作業室が欲しい！
- ☐ 近所の子ども達やお母さんたちがいつでも遊びに来られるお店を作りたい！

ご家族からの要望（抜粋）

- ☐ 災害対策と防犯設備
- ☐ 個別支援と小集団対応
- ☐ 集団が苦手な仲間に対する設備の導入
- ☐ ゆったり、のんびり集団の活動場所
- ☐ トイレや水廻り設備の充実
- ☐ バリアフリーとリハビリ器具設備
- ☐ 建設してから後悔しないスペースの確保！

赤い羽根共同募金

ご寄付ありがとうございました。

毎年暮れに、駅や街頭で街頭募金活動の元気な声が聴かれますが、今年は様子が違います。地域に向いての活動ではなくオンラインで動画が公開されています。

今年度は「はぐるま共働学習ホーム」

「いずみホーム」の冷蔵庫と「あおばホーム」の大型エアコンが設置できました。今年の夏は特に暑く、外出も控えていて、室内の環境には大変気を使いましたので、新しい設備は大活躍しました。

皆様のご協力に感謝申し上げます。



広い部屋を一気に涼しくできるパワフルエアコンのおかげで常に快適にすごせます。

狭いスペースにピッタリ